

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 山口望  
所属 (School) 看護学研究科 家族支援 CNS コース  
学年 (Grade) 1年  
留学先 (Name of overseas institution)  
Ramathibodi school of nursing,  
Faculty of Medicine Ramathibodi Hospital,  
Mahidol University  
留学期間 (study abroad period)  
2017.9.6~9.19  
記入日 (Date) 2017.9.24

## 留学レポート Study Abroad Report

### Autonomy of Thai nurses

私が今回の Exchange Program に参加したきっかけは、タイの看護師の自律性の高さを感じたことで、どのようにして自律性を獲得できているのかについて興味を持ちました。“看護”の地位が社会的に高く認められてきた歴史も大きく影響していると思いますが、現在も看護学部教育の中で看護協会や学校のポリシー (Resiliency, Autonomy, Nurture, Smart) をしっかり伝えているということ、そして地域住民から看護師が強く必要とされていることを実感していることも自律性を育む助けになっているということを知ることができました。



さらに、看護師が看護師の判断で行える医療の範囲が広いことも影響しているのではないかと感じました。日本においては、制度上難しいこともあります。もっと自律性の高い看護師を育てていくためには、やはりその思考の基盤となる看護のポリシーを築いていく教育が必要なのではないかと考えます。臨床現場での継続教育においても活かしていきたいと思っています。

(修了式の写真)

### How to give a presentation in English

今回、初めて英語でプレゼンテーションを行う機会を得ました。スライドの作成では、多くの人の支援を頂き、英語表現を学びながら伝えたいことを言葉にしていきました。しかし、実際にプレゼンテーションを行ってみると、期待していたよりも反応は乏しく感じました。日本のことをよく知らない大学院生を対象に、その1回のプレゼンテーションで日本の何を知ってもらい、何に興味を持ってもらえるように伝えるか、そこにはもっと工夫が必要でした。

私が今回学んだ、反省点でもあり重要なポイントは3点あげられると思います。1つ目は、日本の医療を取り巻く現状や家族形態の変化について知ってもらうために、多くの項目を挙げすぎて焦点が分かりづらくなったこと、2つ目は、家族看護の捉え方が日本とタイとは異なっていることは分かっても、家族看護の概念を英語で説明するというのが難しく、十分なディスカッションが行えなかったことです。そして、3つ目は、話し方の抑揚が不十分であったことです。



国を越えると、ある概念自体の捉え方も異なることはありうることで、そうした違いも考慮して伝えたいことの焦点を絞り、日本での基本的な考え方や現在の状況、課題などを英語で説明できるよう、準備しておくことが重要であると学ぶことができました。

(プレゼンテーションの時の写真)

## Family in Thailand

プレゼンテーションの場で十分なディスカッションが行えなかったことは残念でしたが、その後の研修中に先生や学生たちからタイの家族について教えていただくことができました。

タイの家族は、3世代など大家族で暮らしている世帯もまだまだ多く、育児や介護といった身体的なケアも家族の中で分担して行われるのが一般的だということ、その根底には、両親の看護・介護を行うのは子どもの責任であるという考え方があり、もし同居していなくても、子どもたちがシフトを組んで協力して両親の面倒をみる習慣があることが知りました。また、男役割、女役割といった家庭でのジェンダー意識は強くなく、“お嫁に行く”という感覚も持っていないことも分かりました。



(ある家庭を訪問した時の写真)

しかし、現在タイでは少子化が進行しており、両親の看護・介護ができるだろうかという懸念も出てきていました。日本においても少子高齢化や価値観の変化に伴い、家族構造や家族機能が変化してきたように、今後タイにおいてもそうした変化に迫られるのではないかと感じました。そして、少子高齢化の先を歩んでいる日本は、そうした社会変化の中で生じてきた家族の課題や対策などについて、諸外国へ看護の立場で発信していく必要があるのではないかと考える機会となりました。

## Health Promotion in Community



(Elderly Club の見学時)

タイでは、国をあげてコミュニティヘルスプロモーションの活動が積極的に行われています。いかにその地域の住民が参加し主体的に健康活動（エクササイズ、セミナーなど）を行っていくかに看護師も尽力しており、看護師はあくまで下支えで住民に寄り添いながら、地域のエンパワーメントを促していく存在となっていることが印象的でした。そして、同時に訪問看護活動も行いながら、その地域全体の健康管理を担っていました。



(Community Health Center 見学時)

日本の保健師と訪問看護師の役割を一手に担っておりその役割負担は多大なものだと感じましたが、日本でも今後地域での医療システムを発展させ、健康増進を推進していくためには、地域の保健師活動と訪問看護の連携をもっと深めていくことも必要ではないかと考えさせられました。

## ～これから Exchange Program へ参加する方々へ向けて～

他国の社会・医療の現状、そして異文化を知ることで、改めて日本の現状を見つめ直し、日本の良さや日本が有している課題について考える機会となりました。当たり前のように感じていた制度や教育、習慣、街づくりなど、その見方・考え方の幅を広げるきっかけになったと思います。

英語力があれば、そしてもっと恥ずかしがらずに積極的にコミュニケーションを取れば、もっと有意義な研修になったろうとは思いますが、それでも異文化を肌で感じ、様々な刺激を得られる2週間でした。そして、研修開始時は聞き取りにくかった先生の英語が、終了日には少し聞き取りやすくなったと実感することもできました。

先生方も学生も快く受け入れて下さるので、英語力に自信がなくても、是非積極的なコミュニケーション、ディスカッションにトライして沢山のことを学んでほしいと思います。